



鹿沼東高校 ～ NPO法人と連携した探究活動 ～

《 特色 》 鹿沼東高校は、特定非営利活動法人かえる舎（以下NPO法人）と連携して、探究活動を進めています。1年次では、身近な課題を解決する活動を通して探究活動に必要な力を育成し、2～3年次では、生徒が身に付けた情報の収集・整理・分析能力を生かして進路探究を進めます。これらの活動を通して、自分の将来の生き方を考え、適切な進路を選択するとともに、自ら主体的に課題解決に取り組む力を育成します。

年間予定

1年 進路実現のための基礎体力づくり

4～7月 地域を知る

- 地域の現状や課題をリサーチ
 - ・地域の方々に話を聞く
 - ・本校の卒業生たちに話を聞く

9～10月 課題設定・解決案検討

- 課題設定ワークショップ
- 課題解決手法ワークショップ
- 課題設定・課題解決案提案

11～12月 情報収集・解決案を考える

- 地域の方の話やインターネットでの情報収集
- 解決案をまとめる

12～1月 クラス発表・全体発表

- 提案を具現化する

2年 進路実現に向けた計画づくり

4～6月 進路について調べる

- 自分の適性を知る
- 学部・大学調べ
- オープンキャンパス計画作成

夏休み オープンキャンパスに参加

9月 ゲストによる各業界の課題と解決に向けた取組の講話

10月 進路実行計画立案

- 志望理由書作成
- 発表資料作成

12～1月 発表

- クラス発表・全体発表

3年 進路実現に向けた取組

4～6月 進学シミュレーションの実施 思考力、表現力向上演習

point4

地域の企業や市役所の方々の講話により生徒が社会の課題に気づき、視野を広げ、進路実行計画を具体的に立案できるようにする。



《 生徒の感想 》

- ・これから先、自分のやりたいことが変わったり、見つかったりするかもしれないが、そのときのために今は勉強をしようと思いました。
- ・話を聞いて、もっと広い視野で世の中を知りたいと思いました。今後の自分の進路を見直してみたり、より深く考えたりと良い機会になりました。

point1

地域の方々や卒業生から話を聞いて、地域や各職業の現状と課題を考える。

《 主な内容 》

- ・鹿沼市内の工場や職場の見学や体験を通して、地域の現状と課題を考える。
- ・各分野で活躍する卒業生から、自分の興味のある分野の現状と課題を聞き、自分の将来像を具体的に考える。



point2

学校で年度ごとに設定した探究課題について、自分事として捉え解決策を提案する。

《 令和元年度・・・幼稚園における課題 》

家庭総合の幼稚園実習で、実際に園児と触れ合う中で課題を見つけ、それを解決するために鹿沼の伝統技術である木工を活用する。

【主な課題と提案】

- ・園児は高い所に手が届かない。
 - 木製の踏み台をつくる。
- ・園児が地元の木工業に触れる機会が少ない。
 - 木工製品に触れられるように、木製の遊具をつくる。

《 令和2年度・・・コロナ時代の楽しみ方 》

【楽しい生活の主な提案】

- ・動物園の動物たちに取り付けたカメラの動画を配信する。
- ・オンライン結婚式。
- ・お祭りの風景の動画を配信する。

《 令和3年度・・・学校の魅力を広める方法 》

【学校の魅力発信の主な提案】

- ・学校紹介のイメージ動画を作成する。



point3

発表された内容を基に、提案を具現化する。

《 令和元年度 》

幼稚園の課題を解決する提案を、クラスや学年で発表した後に、生徒と地域の方が一緒に話し合った上で、アルファベットをかけた木製の積み木を製作することにした。製作後は、幼稚園に寄贈して、遊びながら園児に使い方を教えた。



《 令和2年度 》

コロナ禍を楽しむための、高校生ならではの工夫をクラスや学年で発表して共有した。それらをまとめた冊子を制作し、鹿沼市内の小・中学校の図書館に配布した。



《 令和3年度 》

学校の魅力を発信するためのイメージ動画をクラスごとに制作し発表した。最後に各クラスの動画を結合・編集加工したものを制作した。完成した動画は、本校のwebサイトで紹介する予定。



これまでの主な取組

●NPO法人との連携

・教員とNPO法人との協働

総合探究の担当教員や学年担任団とNPO法人とが協力して、総合探究の計画、事前準備を進めるとともに、事後の振り返りを共有し次に生かしている。

・コーディネーターとして学校と地域をつなぐ

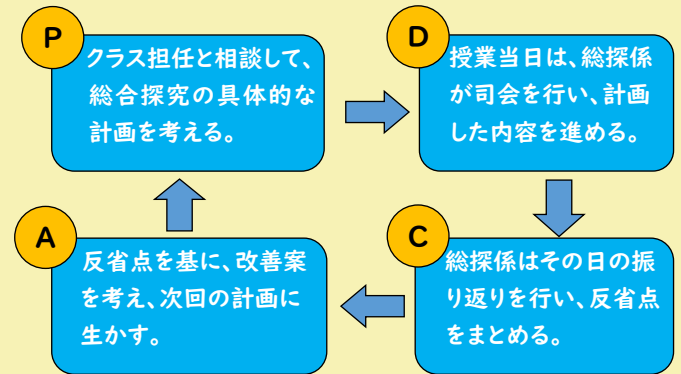
探究の目的に合わせてNPO法人が地域の人材を発掘し、学校と地域をつなぐ。市役所や企業、他のNPO法人など毎年10団体ほどが関わり、継続した地域連携を可能にしている。

・NPO法人が主導してオリジナルテキストを作成

生徒の成長を促すために必要なインプットやアウトプットが円滑にできるように、オリジナルテキストをNPO法人が主導して作成している。その学年の生徒の実情に合わせ、生徒の興味関心を引出しながら、生徒が前向きに取り組めるテキストにしている。

●総合探究を生徒中心で進めるしくみづくり

総探係（各クラス2名）が、NPO法人に助言をもらいPDCAを意識しながら、総合探究を企画・運営する。



これから目指す取組

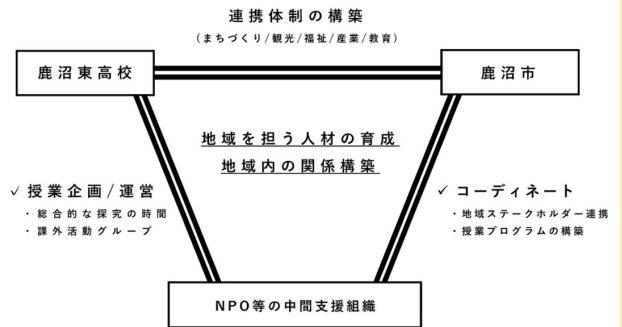
●学校と地域をつなぐ包括的な連携体制の構築

学年や担当者が変わったとしても、これまでと同様、学校と地域が連携できるように、包括的で持続可能な体制を構築する。また、それぞれの役割を明確化して、定期的に進捗を共有する場を設定し、地域全体で地域を担う人材の育成に取り組んでいる意識を醸成する。



課題解決に向けた実施体制構築

コーディネーターを中心とした外部組織と連携し一貫した教育体制を実現する



評価の事例

●アンケートの実施

「総合的な探究の時間」の初回と最終回に、同じ内容のアンケートを実施し、生徒の成長を見取る。また、アンケート結果から、各プログラムが適切に効果を発揮したかを検証し、次年度の「総合的な探究の時間」の計画に生かしている。

《 主なアンケート項目 》

- ・日常生活の中で「知りたい」「なぜだろう、不思議」と思うことがある。
- ・日常生活の中で壁にぶつかった時に解決策を探すことが得意だ。
- ・困難や難しい課題に直面した時、インターネットや書籍で解決策を探せる。



●1年間の振り返りで、「身に付いた力」を共有

1年間の総合探究を振り返って最も身に付いたと思う力を生徒に二つ挙げさせ、自身の成長を言語化し、その成長を生徒と教員で共有して、2年次の活動につなげる。

《 生徒が身に付いたと思う力 》

- ・コミュニケーション力
- ・考える力
- ・協力する力
- ・まとめる力
- ・調べる力
- ・聞く力
- ・伝える力
- ・尊重する力
- ・意見を言う力
- ・想像力
- など

《 担当者の声 》 進路部 「総合的な探究の時間」係 教諭 澁江 なすの

NPO法人や地域と連携した探究活動を通じて、生徒自身が自らの創造力を働かせながら、他者と協力して問題解決に取り組みました。それにより、実社会で役立つ知識やスキルを身に付け、主体的に行動できる生徒が増えました。今後も、地域の人材と連携し、情報端末なども活用しながら、これからの時代に求められる課題発見・解決能力の育成に取り組んでいきたいと思ひます。